

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3770594号

(P3770594)

(45) 発行日 平成18年4月26日(2006.4.26)

(24) 登録日 平成18年2月17日(2006.2.17)

(51) Int. Cl.

A61H 7/00 (2006.01)

F I

A61H 7/00 310E

請求項の数 2 (全 7 頁)

| | | | |
|-----------|-------------------------------|-----------|---|
| (21) 出願番号 | 特願2001-372327 (P2001-372327) | (73) 特許権者 | 596115746 萩原 秀紀 神奈川県横浜市南区大岡三丁目9番17号 |
| (22) 出願日 | 平成13年12月6日(2001.12.6) | | |
| (65) 公開番号 | 特開2003-169828 (P2003-169828A) | (74) 代理人 | 100073184 弁理士 柳田 征史 |
| (43) 公開日 | 平成15年6月17日(2003.6.17) | | |
| 審査請求日 | 平成15年7月10日(2003.7.10) | (74) 代理人 | 100090468 弁理士 佐久間 剛 |
| | | (72) 発明者 | 萩原 秀紀 神奈川県横浜市南区大岡三丁目9番17号 |
| | | 審査官 | 田中 玲子 |

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 使い捨て痩身用吸引カップ

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

被痩身部に密着される開口端部を備え、内部の減圧により前記被痩身部を吸引するように構成された痩身用吸引カップにおいて、

該痩身用吸引カップが、該吸引カップの外表面に、吸引後、折り曲げにより前記吸引カップの表面の一部を破壊し、前記内部の減圧を解除して前記吸引カップを前記被痩身部から取り外し可能とする、該吸引カップの外表面と一体に形成された破壊部を有することを特徴とする使い捨て痩身用吸引カップ。

【請求項2】

前記破壊部が、前記吸引カップの外表面に形成された突起と、該突起の根本近傍の前記吸引カップに形成された、前記突起の折曲げにより破壊される薄肉部から構成されてなることを特徴とする請求項1記載の使い捨て痩身用吸引カップ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、身体の前記被痩身部の皮下脂肪を減少させるための痩身用吸引カップに関し、特に使い捨て痩身用吸引カップに関するものである。

【0002】

【従来技術】

従来より、吸引器あるいは吸い玉と呼ばれる吸引カップの開口部を患部に密着させた状態

10

20

で、吸引ポンプ等を用いて上記カップ内を減圧して、あるいはアルコール等をカップ内で燃焼させることによって上記カップ内を減圧して、患部を吸引することにより、患部内部の鬱血を表層に誘導し、浅存血管の排泄作用により患部の鬱血を取り除くようにした吸角療法が知られている。

【0003】

さらに、この吸角療法を利用して、皮下脂肪の多い被瘦身部を吸引カップで吸引することにより、無駄な皮下脂肪を散逸させる瘦身美容法も提案されている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

従来使用されていたカップは、使用後、被瘦身部から取り外すのに、専用の減圧解除のバルブを有する逆止弁を設ける必要があり、高価なものとなっていた。 10

【0005】

上記事情に鑑み、本発明は、使用後に簡単に減圧を解除して、そのまま廃棄できる安価な使い捨て瘦身用吸引カップを提供することを目的とするものである。

【0006】

【課題を解決するための手段】

本発明の使い捨て瘦身用吸引カップは、被瘦身部に密着される開口端部を備え、内部の減圧により被瘦身部を吸引するように構成された瘦身用吸引カップにおいて、瘦身用吸引カップが、この吸引カップの外表面に、吸引後、折り曲げにより吸引カップの表面の一部を破壊し、内部の減圧を解除して吸引カップを被瘦身部から取り外し可能とする破壊部を有することを特徴とするものである。 20

【0007】

上記破壊部は、吸引カップの外表面に形成された突起と、この突起の根本近傍の吸引カップに形成された、突起の折曲げにより破壊される薄肉部から構成されたものとしてできる。

【0008】

【発明の効果】

本発明の使い捨て瘦身用吸引カップによれば、この吸引カップの外表面に、吸引後、折り曲げにより吸引カップの表面の一部を破壊し、内部の減圧を解除して吸引カップを被瘦身部から取り外し可能とする破壊部を有するよう構成したので、使用後に簡単に減圧を解除してそのまま廃棄でき、且つ安価な使い捨て瘦身用吸引カップが得られる。 30

【0009】

上記破壊部が、吸引カップの外表面に形成された突起と、この突起の折曲げにより破壊される、カップの薄肉部から構成されている場合には、単に突起を折り曲げるだけで、カップの内部と外部との気圧を同じにすることができるので、減圧解除の操作を極めて容易に行うことができる。また、複雑な減圧解除の機構を有さないので、安価な使い捨て瘦身用吸引カップとすることができる。

【0010】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の好ましい実施の形態について、図面を参照して詳細に説明する。図1は、本発明の使い捨て瘦身用吸引カップ(以下、単にカップという)の第1の実施の形態を示す縦断面図である。このカップ1は、樹脂製であり、下部に円形の開口2を有する釣鐘状の比較的堅固なカップ本体3を有する。カップ本体3は、円筒形の胴部4と、この胴部4の上部を閉鎖する球面状の頂部6を有する。カップ1の開口2の周縁には、身体の一部である、皮下脂肪を散逸させたい被瘦身部8に当接するフランジ10が形成されている。頂部6には、減圧のために外部のホース(図示せず)等が接続されるパイプ14が一体に形成され、このパイプ14に瘦身用吸引カップ1の内部を減圧するための吸気孔12が、パイプ14を貫通するように形成されている。 40

【0011】

この吸気孔12には逆止弁16が形成され、減圧されたカップ1の内部に空気が逆流しな 50

いようになっている。この逆止弁 16 によって、カップ本体 3 の内部 4 2 を吸引ポンプ (図示せず) によって減圧後、ホース等の接続具をパイプ 1 4 から取り外しても、カップ本体 3 内部の減圧状態が維持されるようになっている。したがって、複数の被瘦身部 8 に対してそれぞれ 1 個のカップ 1 を置き、これらカップ 1 に対し、単一の吸引ポンプに接続されたホースを順次着脱しながら減圧してセットしてゆくことができる。逆止弁 16 の詳細な構造については後述する。

【 0 0 1 2 】

また、パイプ 1 4 の近傍には突起 (破壊部) 2 4 が頂部 6 と一体に突設されている。この突起 2 4 は、吸引後に、折り曲げることにより頂部 6 の薄肉部 (破壊部) 3 5 を破壊して減圧を解除するためのものであるが、詳細構造については後述する。

10

【 0 0 1 3 】

次に、逆止弁 16 の構造について詳細に説明する。図 2 は、逆止弁 16 を示す頂部 6 の部分断面図であり、図 2 (A) は図 1 に示す逆止弁 16 を、図 2 (B) は、他の実施形態の逆止弁を、図 2 (C) はさらに別の実施形態の逆止弁を夫々示す。図 2 (A) に示すようにパイプ 1 4 内には小孔 1 2 a を有する隔壁 2 6 が形成されている。この隔壁 2 6 上には、円板状の弁体 1 6 a が取り付けられている。この弁体 1 6 a は、その一端が隔壁 2 6 に取り付けられており、減圧時に隔壁 2 6 に張り付いて小孔 1 2 a を塞ぐ閉鎖位置と、吸引時に図 2 (A) に示すように内部の空気が外側に通過可能な開位置との間を矢印 2 8 で示すように移動可能になっている。パイプ 1 4 の先端部には、ねじ 3 2 が形成され、このねじ 3 2 にリム 3 0 が螺合して弁体 1 6 a を保護している。パイプ 1 4 の外周には、通常、図示しないチューブ或いはホースが取り付けられて、吸引装置に接続されて、カップ 1 の内部 4 2 の空気を減圧するように構成されている。この構成については、任意の公知の手段をとりうるので、詳細な説明は省略する。

20

【 0 0 1 4 】

次に、図 2 (B) に示す他の実施形態の逆止弁 17 について説明する。図 2 (A) に示す実施形態と異なる点は、弁体 1 7 a が、図 2 (A) と同様な円板状であるが、隔壁 2 6 とリム 3 0 間に遊動するよう配置されている点である。この弁体 1 7 a は、内部 4 2 の空気を吸引されるときは、弁体 1 7 a が浮遊して図 2 (B) に矢印 1 9 で示すように、空気通路が確保される。吸引を停止してホースを引き抜くと弁体 1 7 a は、内部 4 2 が減圧されているので隔壁 2 6 に張り付いて内部 4 2 を減圧状態に維持する。

30

【 0 0 1 5 】

次に図 2 (C) に示すさらに別の実施形態について説明する。この実施形態では、頂部 6 に外方に向け凹所 3 3 が形成された円錐形の突出部 3 1 が頂部 6 と一体に形成されている。凹所 3 3 内は、環状の段部 3 3 a および 3 3 b を有すると共に貫通孔 3 7 と連通している。段部 3 3 b の外周には、環状溝 3 9 が形成されている。段部 3 3 b には、比較的柔軟なスポンジ状の樹脂で形成された円板形の弁体 4 1 が配置される、そして段部 3 3 a には、孔 4 3 を有する円板状の蓋 4 5 が、凹所 3 3 の内壁面 3 3 c に圧入されて固定される。吸引時には弁体 4 1 が僅かに上方に移動して、空気通路が矢印 4 6 で示すように確保され、空気が減圧された後、図示しないホースを引き抜くと弁体 4 1 は段部 3 3 b に押しつけられて、内部 4 2 は減圧状態に維持される。

40

【 0 0 1 6 】

次に、図 3 を参照して減圧を解除するための突起 2 4 について説明する。図 3 (A) は、図 1 に示す突起 2 4 を有する頂部 6 の部分断面図である。図 3 (B) は、他の実施形態を示す頂部 6 の部分断面図である。図 3 (A) に示すように、突起 2 4 が形成された頂部 6 には、突起 2 4 の根本に対応する裏面に円形の凹部 3 4 が形成されている。それにより、根本の部分の、頂部 6 の肉厚が薄くなっている。この為、突起 2 4 を横方向に押し倒すと、薄肉部 3 5 が破断して、頂部 6 の孔を穿設して、カップ 1 の内部と外部が同じ気圧になる。即ち、内部が減圧されているときは、減圧が解除されてカップ 1 を容易に被瘦身部 8 から取り外すことができる。また、図 3 (B) は、突起 2 4 と位置ずれさせた凹部 3 6 を示す。この場合は、突起 2 4 を矢印 3 8 の方に押圧すると、薄肉部 4 0 が破断するように

50

なっている。上記実施形態の凹部 34、36 は円形の凹部であるが、正方形或いは長方形等の他の任意の形状の凹部とすることができる。

【0017】

次に図4から図6を参照して、他の実施形態のカップについて説明する。図4は、他の実施形態のカップ50の正面図、図5は図4のカップ50の側面図、図6は図4のカップ50の底面図を夫々示す。なお、説明にあたり、図1と同じ部品については、同じ参照番号を付して説明する。カップ50は前述の実施形態のカップ1と同様に釣鐘状の本体53を有し、底部に開口端部55を有し、頂部56には逆止弁16および凸部即ち突起24が形成されている点は、前述の実施形態と同様である。図1に示した実施形態と異なる点は、本体53が、図1に示す本体3よりも薄肉の材料で成形され、且つ前後に開口端部55から上方に向けて本体53の内面に短い溝58が形成されている点である。これを底面からみると、図6に示すように溝58はカップ50の中心を挟んで対向するように配置されている。

10

【0018】

このように構成されたカップ50を使用状態を図7に示す。図7は図4に示すカップ50の使用状態を示す斜視図である。減圧すると、溝58の左右の部分は矢印60で示すように大気圧により力を受けて凹む。吸引された被瘦身部8は、このように本体53が凹むことにより、両側から押圧されて皮下脂肪を効果的に拡散することができる。この実施形態でも、突起24を折り曲げて減圧を解除することにより、カップ50を容易に取り外すことができる。

20

【0019】

また、図8に示すように溝58の数を増やすこともできる。図8は、溝58を3カ所に形成したカップ70の底面図を示す。溝58が3カ所に設けられているので、減圧したときに、開口端部65は仮想線で示すように略3角形状に内方に潰れるので、この間の被瘦身部8は、3方向から押圧されて、一層瘦身効果が増大する。この溝58の数、或いは形成する円周方向の位置については、種々の変形、変更例が可能である。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の使い捨て瘦身用吸引カップの第1の実施の形態を示す縦断面図

【図2】逆止弁を示す頂部の部分断面図であり、(A)は図1に示す逆止弁を、(B)は、他の実施形態の逆止弁を、(C)はさらに別の実施形態の逆止弁を夫々示す

30

【図3】減圧を解除するための突起を示し、(A)は、図1に示す突起を有する頂部の部分断面図、(B)は、他の実施形態を示す頂部の部分断面図である。

【図4】他の実施形態の使い捨て瘦身用吸引カップの正面図、

【図5】図4の使い捨て瘦身用吸引カップの側面図

【図6】図4の使い捨て瘦身用吸引カップの底面図

【図7】図4に示す使い捨てカップの使用状態を示す斜視図

【図8】溝を3カ所に形成した、別の実施形態を示す使い捨て瘦身用吸引カップの底面図

【符号の説明】

1、50、70 使い捨て瘦身用吸引カップ

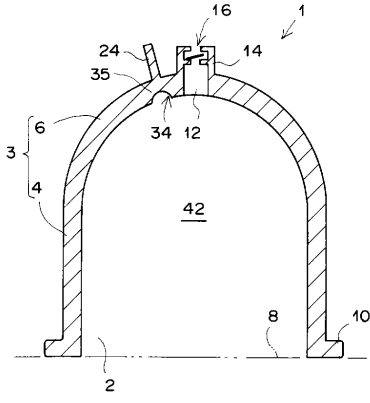
8 被瘦身部

24 突起(破壊部)

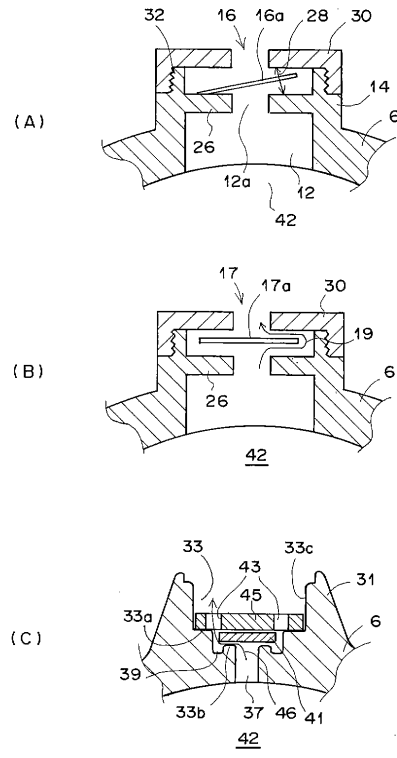
35、40 薄肉部(破壊部)

40

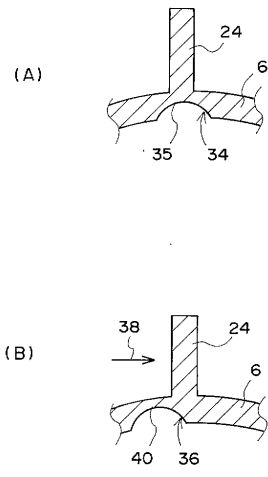
【 図 1 】



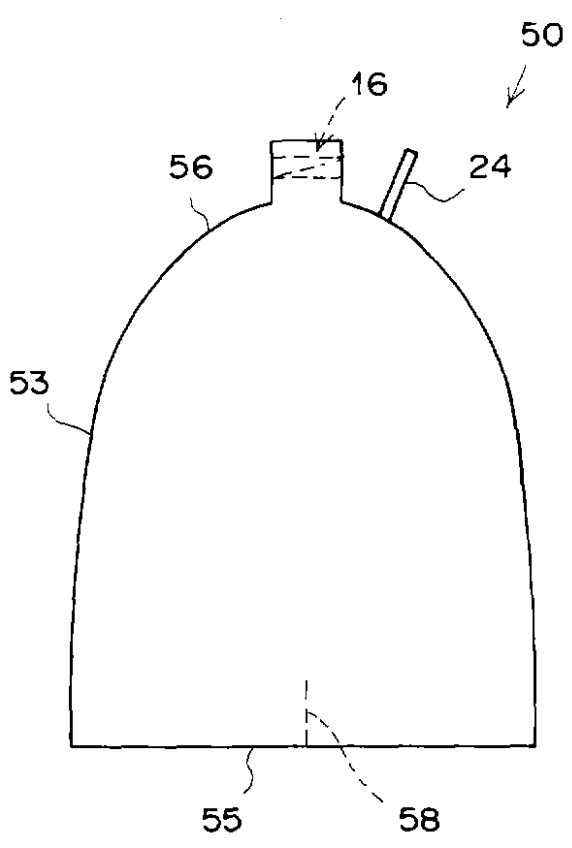
【 図 2 】



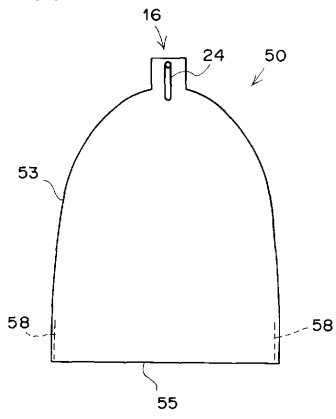
【 図 3 】



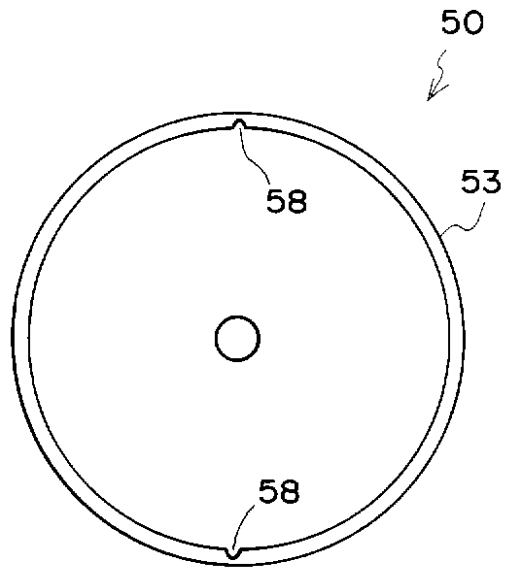
【 図 4 】



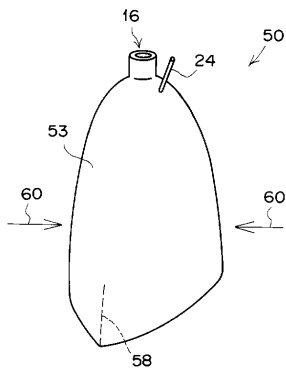
【 図 5 】



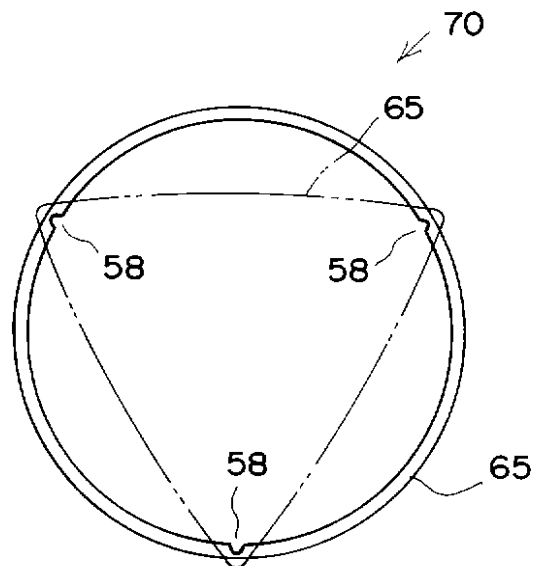
【 図 6 】



【 図 7 】



【 図 8 】



フロントページの続き

- (56)参考文献 特開平08 - 182715 (JP, A)
特開平11 - 028235 (JP, A)
特開平11 - 253513 (JP, A)
特開昭63 - 168161 (JP, A)
実開昭62 - 004336 (JP, U)
特開平03 - 158155 (JP, A)
登録実用新案第3024517 (JP, U)
登録実用新案第3023062 (JP, U)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A61H 7/00

A61H 39/04